

開講科目名 / Course	看護アセスメント学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2024年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	石田 佳代子	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、藤内 美保、山田 貴子、内倉 佑介	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	個人、家族、地域社会のヘルスニーズを達成するための方法論である看護過程の理論を理解することを目的とする。対象者の健康問題と看護の必要性をアセスメントし、問題解決を踏まえた看護過程を展開するための基礎理論を学ぶ。	
到達目標	1. 看護過程の意義や目的について説明できる。 2. 対象理解のための情報収集、根拠に基づいたアセスメント、アセスメントに基づいた看護診断と優先順位の決定、看護計画、実施、評価について説明できる。 3. 事例を通して、看護過程の展開を実施できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性、6.探求心と創造力	
授業計画	01. 看護過程の意義、概要 02. 看護過程の展開：アセスメント（1）情報収集 03. 看護過程の展開：アセスメント（2）アセスメントの基礎知識 04. 看護過程の展開：アセスメント（3）全体像の把握 05. 看護過程の展開：看護診断 06. 事例による個人ワーク（1）データベース、アセスメント 07. 看護過程の展開：計画 08. 看護過程の展開：実施、評価 09. 事例による個人ワーク（2）アセスメントのプレゼンテーション・フィードバック 10. 事例による個人ワーク（3）アセスメント、看護診断、計画	
その他の授業の工夫	講義と事例による個人ワークを並行しながら実施することで、各々の学生が、看護過程の理論を具体的に活用し、看護過程のプロセスとその考え方について理解し、看護過程の理論と実際が理解できるようにする。	
時間外学修	事例による個人ワークレポートを作成し、フィードバックやデブリーフィングにより修正し、完成させる。 事前学修：看護過程に関する動画を視聴する（1h） 事前課題レポートを作成する（15h 3時間×5回） 事後学修：フィードバックによる修正を行う（3h）	
評価方法と評価割合	期限内に提出された事例による個人ワークのレポートの提出が評価の前提である。 小テスト（20%）、レポート内容（80%）。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[2]（医学書院） NANDA-I看護診断定義と分類2021-2023（医学書院） 看護診断を導く情報収集・アセスメント 第6版（Gakken）	
参考書	看護がみえる 看護過程の展開（メディックメディア） 根拠がわかる疾患別看護過程 改訂第3版（南江堂）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	藤内美保：病院の看護師経験 石田佳代子：病院の看護師経験 山田貴子：病院の看護師経験 内倉佑介：病院の看護師経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護師経験を通して、エビデンスに基づき、臨床現場と理論を結び付けながら教授する。	